

## 国内の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 5年10月の牛肉生産量、前年同月比5.4%増

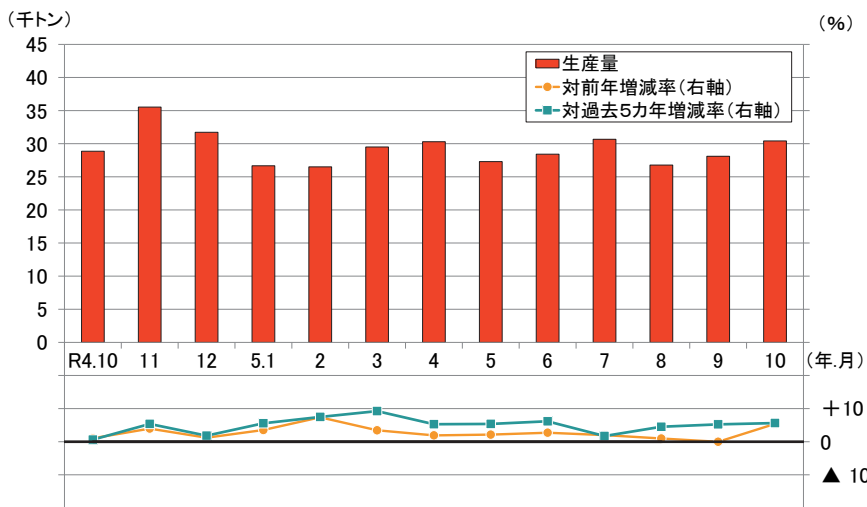
#### 生産量

令和5年10月の牛肉生産量は、3万423トン（前年同月比5.4%増）と前年同月をやや上回った（図1）。品種別では、和牛は1万4703トン（同9.3%増）とかなりの程度、

交雑種は8124トン（同2.6%増）、乳用種は7199トン（同2.0%増）とわずかに、いずれも前年同月を上回った。

なお、過去5カ年の10月の平均生産量との比較でも、5.6%増とやや上回る結果となった。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：部分肉ベース。

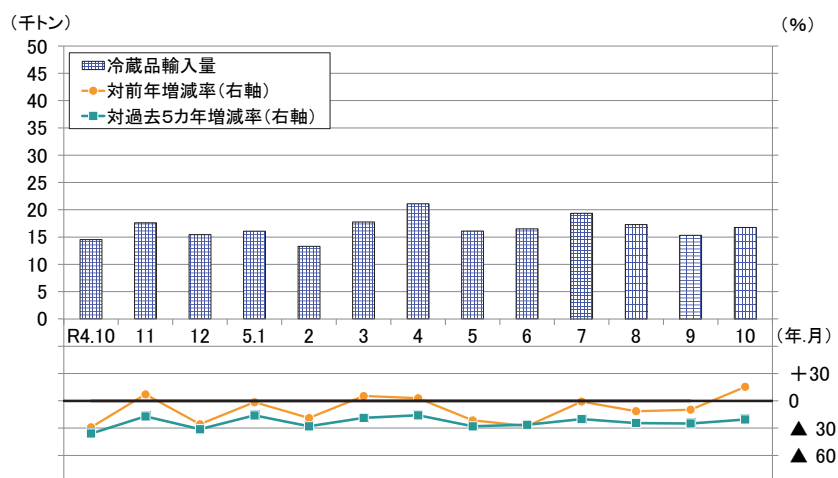
#### 輸入量

10月の輸入量は、冷蔵品は、国内需要は低迷下にあるものの、生産量の増加から豪州産輸入量が増加することなどから、1万6759トン（前年同月比15.3%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。冷凍品は、国内の輸入品在庫量が多いことなどから、

主要国を含むほとんどの輸入先からの輸入量が少なく、2万3530トン（同30.9%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。この結果、全体では4万334トン（同17.0%減）と前年同月を大幅に下回った。

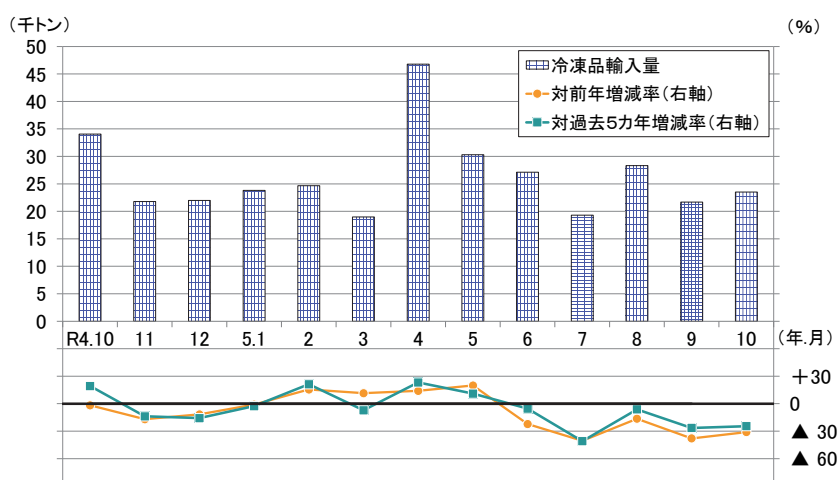
なお、過去5カ年の10月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は20.6%減、冷凍品は24.5%減と、ともに大幅に下回る結果となった。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 家計消費量等

10月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）は149グラム（前年同月比18.6%減）と前年同月を大幅に下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較でも、17.0%減と大幅に下回る結果となった。

10月の外食産業全体の売上高は、天候に恵まれ晴れの日が多く、人流の回復傾向が続く

中、インバウンド需要が引き続き旺盛であったことから、前年同月比8.8%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファーストフードの洋風は、前月からの季節限定メニューが好評であった他、価格改定による客単価の上昇もあり、同4.7%増と前年同月をやや上回った。また、牛丼店を含むファーストフードの和風も、定番の季節メニューが好評であつ

たことから、同13.2%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、一部で店舗数や売り上げの減少が見られるものの、客単価の上昇から、同5.1%増と前年同月をやや上回った。

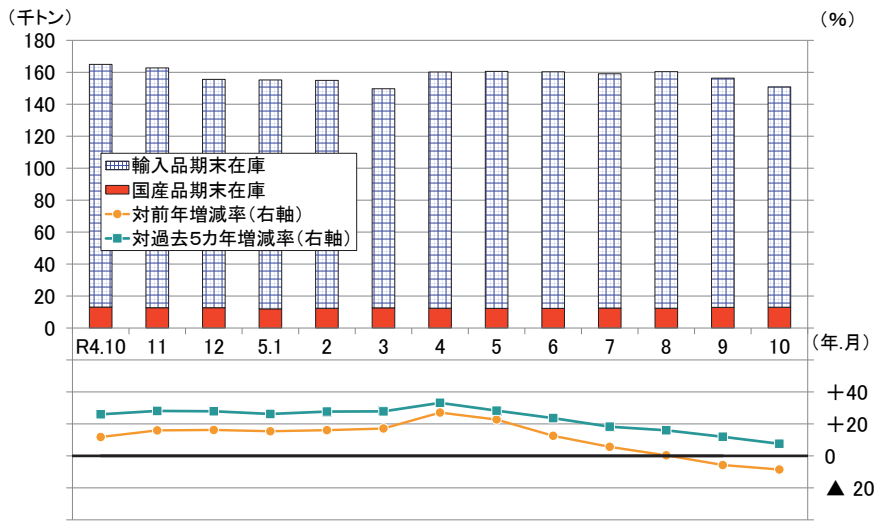
### 推定期末在庫・推定出回り量

10月の推定期末在庫は、15万877トン（前年同月比8.5%減）と前年同月をかなりの程

度下回った（図4）。このうち、輸入品は13万7851トン（同9.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

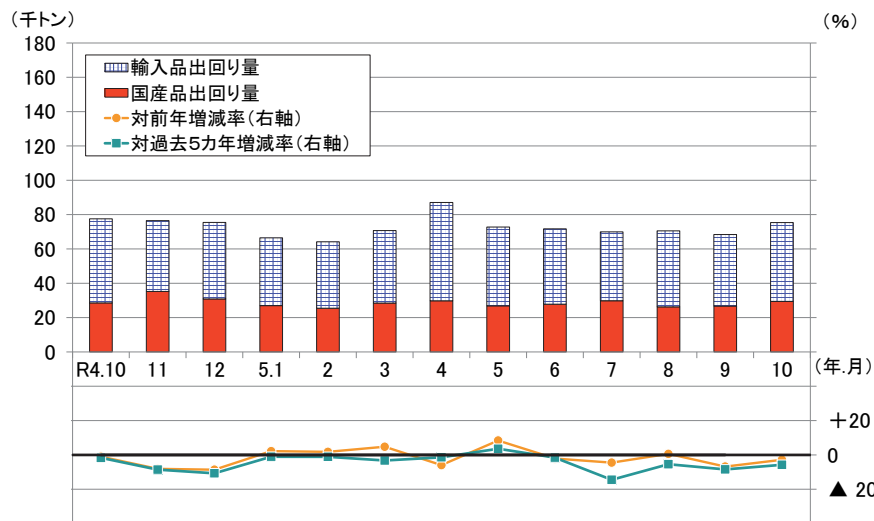
推定出回り量は、7万5369トン（同2.8%減）と前年同月をわずかに下回った（図5）。このうち、国産品は2万9463トン（同3.1%増）と前年同月をやや上回った一方、輸入品は4万5907トン（同6.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大内田 一弘)

# 豚肉

## 5年10月の豚肉生産量、前年同月比3.9%増

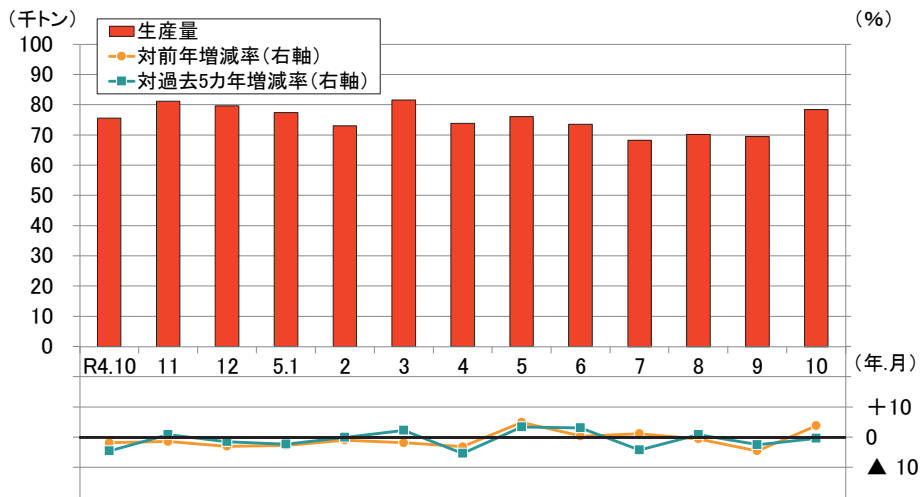
### 生産量

令和5年10月の豚肉生産量は、7万8467トン（前年同月比3.9%増）と前年同月を

やや上回った（図1）。

なお、過去5カ年の10月の平均生産量との比較では、0.4%減とわずかに下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：部分肉ベース。

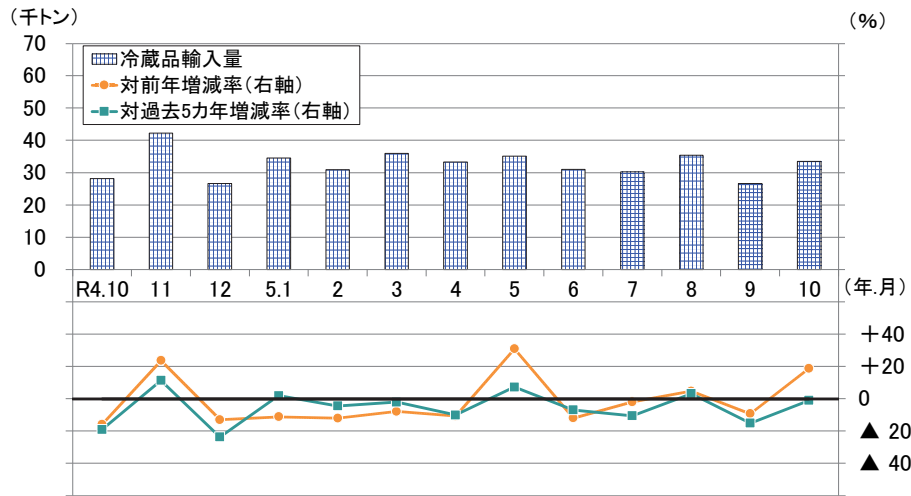
### 輸入量

10月の輸入量は、冷蔵品は、前年のカナダ産の輸入量が少なかったことなどから、3万3491トン（前年同月比18.8%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。冷凍品は、国内の輸入品在庫が多いことに加え、欧州産、メキシコ産の現地相場高や為替の影響

などから、3万6596トン（同23.0%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。この結果、全体では7万100トン（同7.5%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

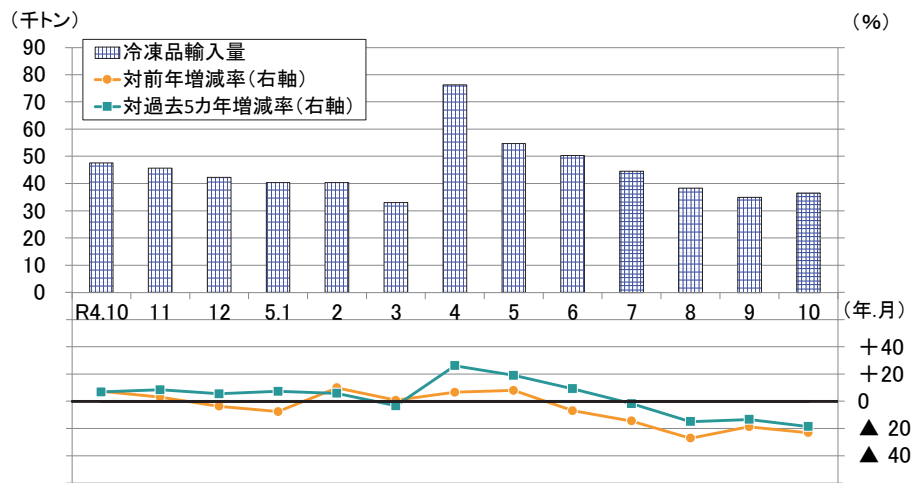
なお、過去5カ年の10月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は1.0%減とわずかに、冷凍品は18.6%減と大幅に、いずれも前年同月を下回る結果となった。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 家計消費量

10月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）は、640グラム（前年同月比3.8%減）と前年同月をやや下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較でも、0.4%減とわずかに下回る結果となった。

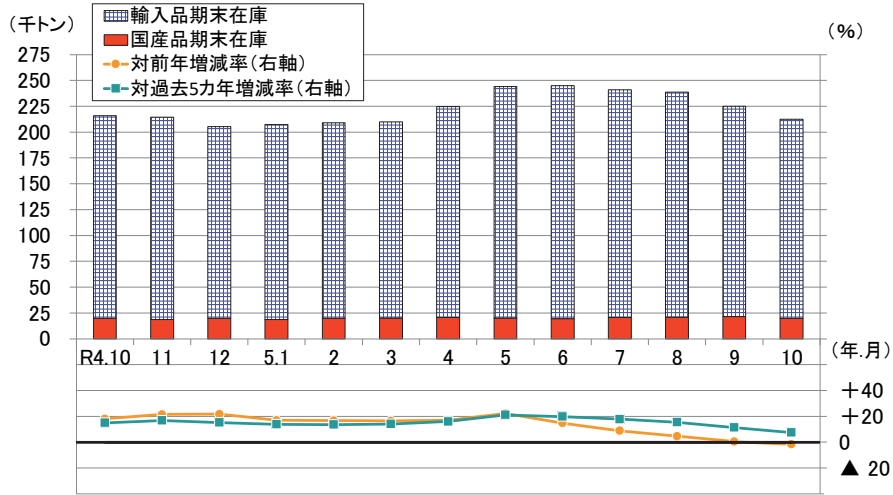
## 推定期末在庫・推定出回り量

10月の推定期末在庫は、21万2501トン（前年同月比1.5%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、輸入品は、19万2812トン（同1.7%減）と前年同月をわずかに下回った。

推定出回り量は、16万830トン（同1.0%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は8万65トン（同6.6%増）

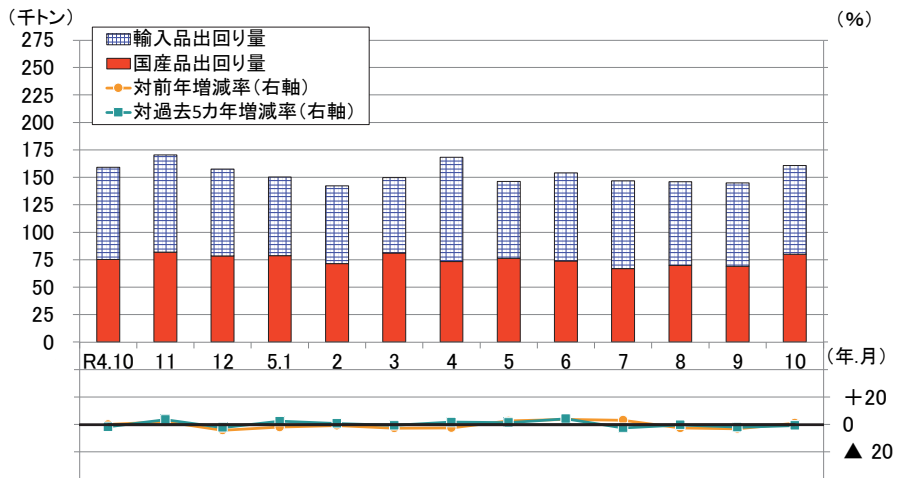
と前年同月をかなりの程度上回った一方、輸 月をやや下回った。  
 入品は8万765トン（同4.0%減）と前年同

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)

# 鶏肉

## 5年10月の鶏肉生産量、前年同月並み

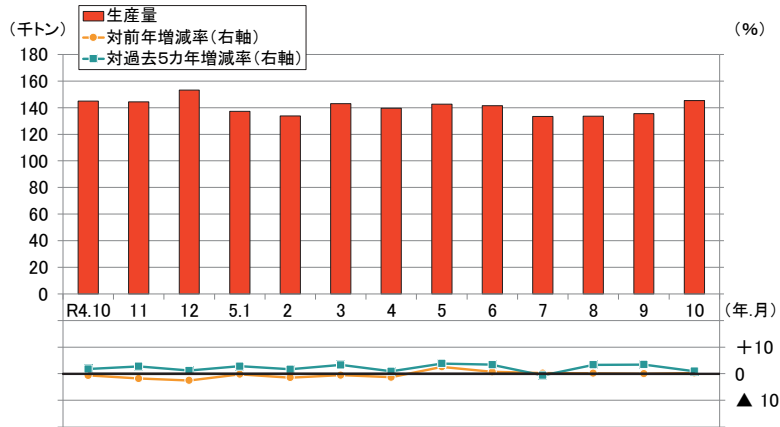
### 生産量

令和5年10月の鶏肉生産量は、14万5342トン（前年同月比0.3%増）と前年同

月並みとなった（図1）。

なお、過去5カ年の10月の平均生産量との比較では、0.9%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：骨付き肉ベース。  
注2：成鶏肉を含む。

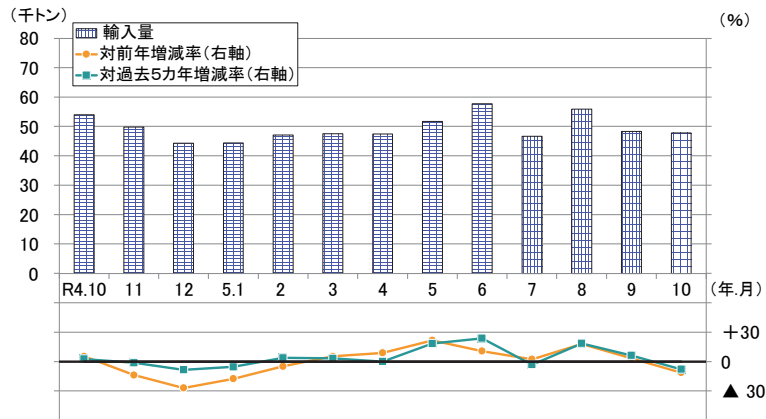
### 輸入量

10月の輸入量は、ブラジルにおいて高病原性鳥インフルエンザが発生した影響によりブラジル産の輸入量が減少したことなどが

ら、4万7805トン（前年同月比11.4%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図2）。

なお、過去5カ年の10月の平均輸入量との比較でも、7.7%減とかなりの程度下回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

## 家計消費量

10月の鶏肉の家計消費量(全国1人あたり)は、520グラム(前年同月比3.9%減)と前年同月をやや下回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較では、0.2%増と同水準という結果となった。

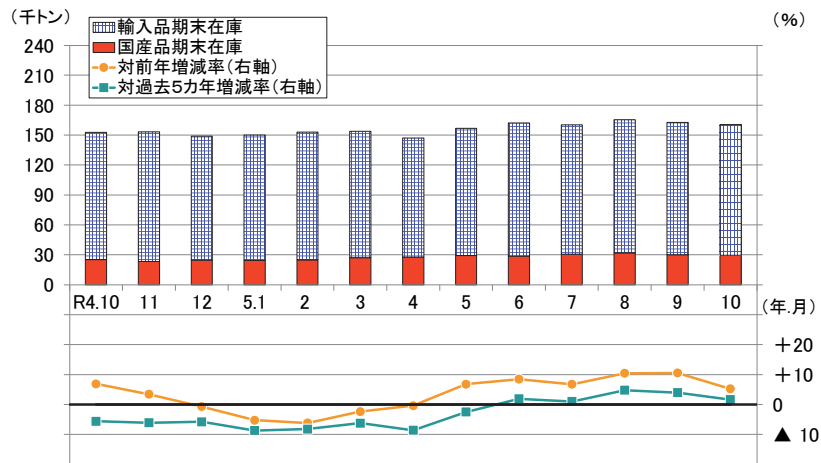
## 推定期末在庫・推定出回り量

10月の推定期末在庫は、16万680トン(前

年同月比5.2%増)と前年同月をやや上回った(図3)。このうち、輸入品は13万926トン(同2.7%増)と前年同月をわずかに上回った。

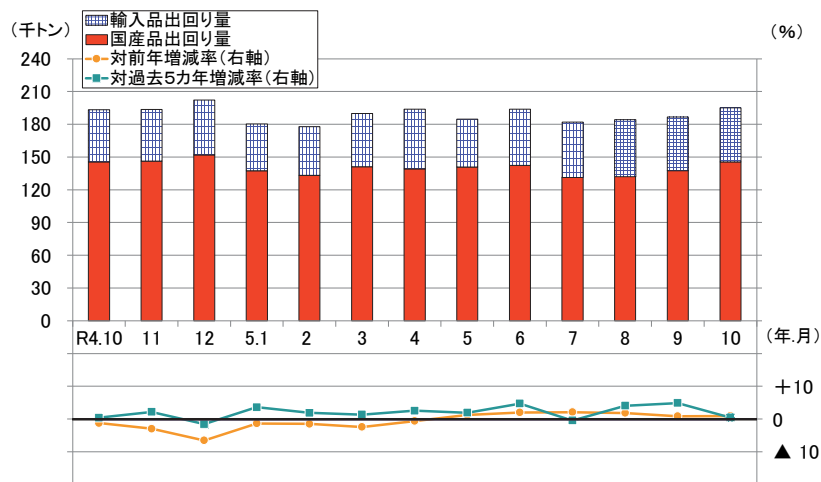
推定出回り量は、19万5013トン(同0.9%増)と前年同月をわずかに上回った(図4)。このうち、国産品は14万5637トン(同0.0%増)と前年同月並みとなった一方、輸入品は4万9376トン(同3.6%増)と前年同月をやや上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 田中 美宇)



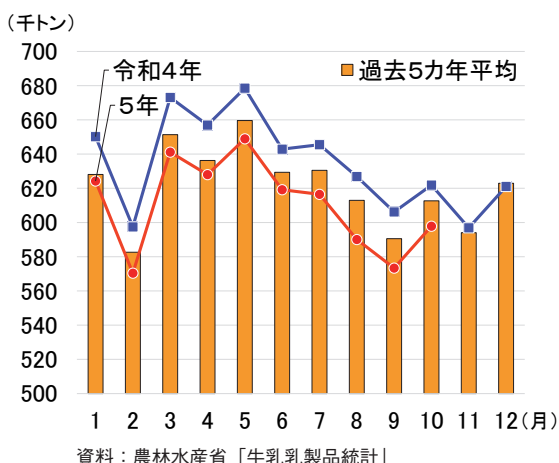
# 牛乳・乳製品

## 10月の生乳生産量、前年同月比3.9%減

### 10月の都府県の生乳生産量、前年同月比4.9%減

令和5年10月の生乳生産量は、59万7849トン（前年同月比3.9%減）と前年同月をやや下回り、15カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別に見ると、北海道は34万2400トン（同3.1%減）、都府県は25万5449トン（同4.9%減）とともに前年同月をやや下回った。北海道は14カ月、都府県は15カ月連続でそれぞれ前年同月を下回った。これは生産抑制に加え、今夏の猛暑の影響などによるものとみられる。

図1 生乳生産量の推移



10月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは、33万8010トン（同2.9%減）と前年同月をわずかに下回った。このうち、業務用向けについては、2万7259トン（同11.3%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

乳製品向けは、25万6205トン（同5.1%減）

と前年同月をやや下回り、15カ月連続で前年同月を下回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは、6万986トン（同4.8%減）と前年同月をやや下回り、チーズ向けは、3万5754トン（同2.5%減）と前年同月をわずかに下回った。脱脂粉乳・バター等向けは、11万2356トン（同8.9%減）と前年同月をかなりの程度下回った（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

10月の牛乳等の生産量を見ると、飲用牛乳等のうち、牛乳は27万1827キロリットル（同3.2%減）と前年同月をやや下回り、成分調整牛乳は1万9602キロリットル（同8.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った。加工乳は、1万3122キロリットル（同10.9%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

乳製品のうち、クリームは1万105トン（同4.1%減）と7カ月ぶりに1万トンを上回った。

### 10月末のバター在庫量、前年同月比34.0%減

10月のバターの生産量は、4304トン（前年同月比9.8%減）と前年同月をかなりの程度下回り、14カ月連続で前年同月を下回った（図2）。出回り量は6345トン（同12.1%減）と前年同月をかなり大きく下回った（農畜産業振興機構調べ）。10月末の在庫量は、2万4386トン（同34.0%減）と前年同月を大幅に下回り、18カ月連続で前年同月を下回った（図3）。

図2 バターの生産量の推移

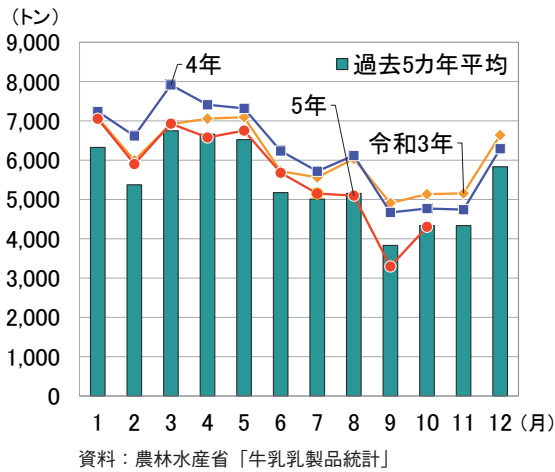


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

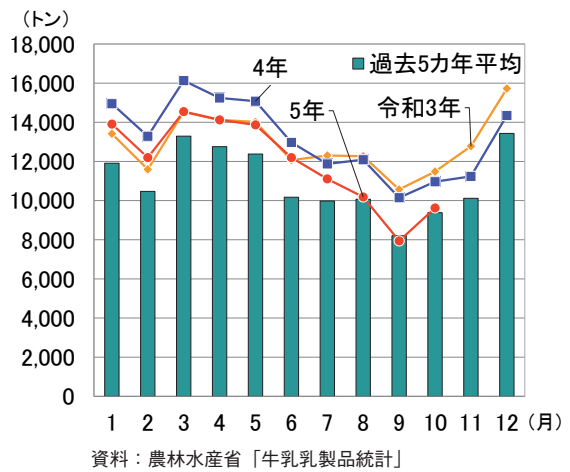


図3 バターの在庫量の推移

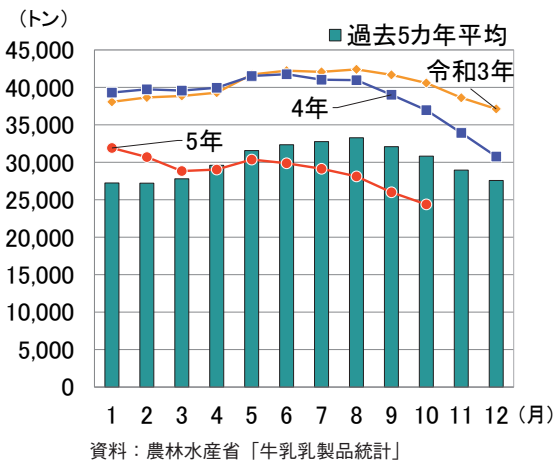
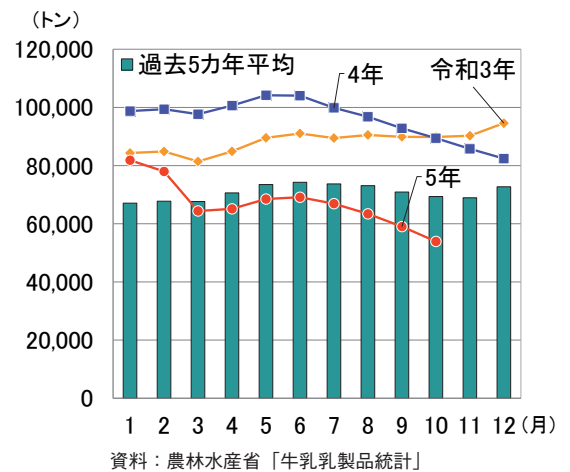


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



### 10月末の脱脂粉乳在庫量、前年同月比39.7%減

10月の脱脂粉乳の生産量は、9624トン（前年同月比12.2%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図4）。出回り量は1万4818トン（同3.2%増）と6カ月ぶりに前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ）。10月末の在庫量は、5万3921トン（同39.7%減）と13カ月連続で前年同月を下回った（図5）。生産量は、2カ月連続で1万トンを下回り、在庫量は、2カ月連続で6万トンを下回った。

### 11月の乳飲料販売数、2週連続で前年同期を下回る

一般社団法人Jミルクが令和5年11月30日に公表したJミルク需給短信（週報）によると、牛乳類全体の販売個数は、11月以降、前年同期比2.4～5.0%減で推移している。品目別では、牛乳が同2.1～4.6%減、成分調整牛乳が同15.2～19.0%減、加工乳が同1.2～4.2%増で推移している。乳飲料については、昨年11月の価格改定以降、価格の優位性により増加傾向で推移してきたものの2週連続で前年同期を下回った。

（酪農乳業部 高橋 沙織）

# 鶏卵

## 鶏卵卸売価格、15カ月ぶりに前年同月を下回る

令和5年11月の鶏卵卸売価格（東京、M玉基準値）は、1キログラム当たり254円（前年同月比3.1%安）と15カ月ぶりに前年同月を下回った。また、4カ月連続で200円台で推移しているが、月別では本年1月以降において最安となった（図1）。

なお、日ごとの価格の推移を見ると、月初の同265円から2回連続落し、16日に同250円となり月内で15円の下落となった。

鶏卵相場は、例年、気温の低下とともに最需要期の12月に向けて上昇する傾向にあるが、本年11月の同価格は前月比10.2%安とかなりの程度下落し、また本年6月以降では9月を除き、前月を下回って推移しており、例年の動きと異なっている。

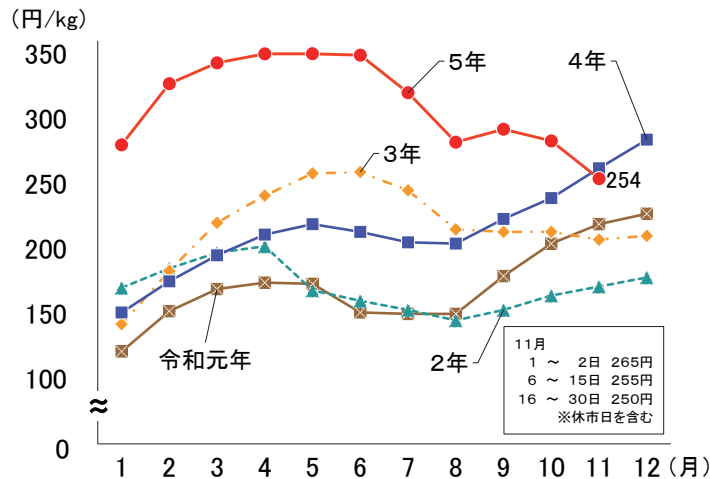
供給面については、高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」という）からの生産復帰が進んでいることや、10月ごろからの気

温の低下に伴い、産卵率と卵重が回復し、生産量は堅調に推移していると見込まれる。

需要面については、外食産業などでの秋限定の卵メニューの展開が終了し、落ち着きを見せているが、今季は、新型コロナウイルス感染症が感染症法の分類で「第5類」に引き下げられてから初めての年末年始となり、活発な人流が見込まれ、鍋物、おでんなどの季節需要や、外食、観光などで年末年始の業務・加工用などの需要の高まりが期待されることから、今後の動向が注目される。

一方、一般社団法人日本養鶏協会によると、業務・加工消費については、外食、加工用に対する供給が減少したことにより利用が抑制されてきた経緯があり、鶏卵を多く使用する商品への変更には約半年ほどの期間を要し、需要回復の速度は家計消費用の回復と比較して遅いと思慮されるという（一般社団法人

図1 鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」  
注：消費税を含まない。

日本養鶏協会「鶏卵の需給見通し（2023年〈令和5年〉9月）」。

これらのことから、今後の順調な供給の回復に対し、需要回復の動向が一層注目される。

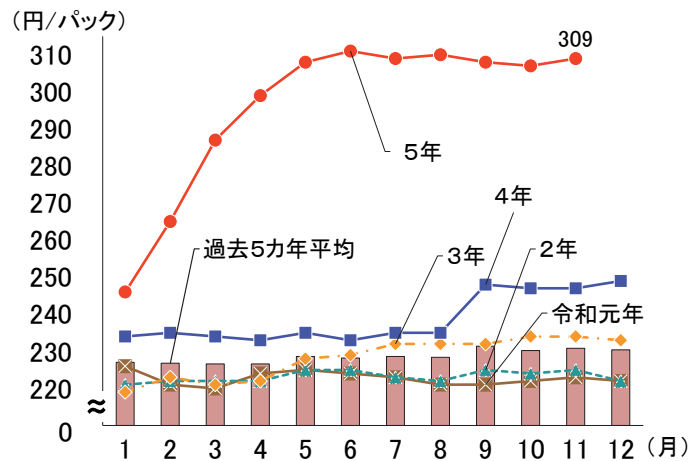
## 鶏卵小売価格、7カ月連続300円台と高水準で推移

鶏卵小売価格（東京都区部）は、11月は1パック当たり309円（前年同月差62円高）となり、31カ月連続で前年同月を上回り（図2）、7カ月連続300円台の小動きでの

推移となっている。

供給量は、HPAIからの生産復帰により生産量、卵重ともに回復しているといわれ、今後も順調な出荷が見込まれる。需要面では、一段と寒さが厳しくなり、季節需要がさらに高まると見込まれる一方で、11月の同価格は過去5カ年の平均価格231円に対し、33.9%高と大幅に上回っており、クリスマスの洋菓子需要や年末商戦の盛り上がりを迎え、同価格の動きが注視される。

図2 鶏卵小売価格の推移



資料：総務省「小売物価統計調査」

注1：消費税を含む。

注2：サイズ混合（卵重「MS52グラム～LL76グラム未満」、「MS52グラム～L70グラム未満」または「M58グラム～L70グラム未満」）。

（畜産振興部 生駒 千賀子）